

# 予算等審査特別委員会

予算等審査特別委員会（議長を除く17人の議員で構成、委員長萩野幸弘議員、副委員長菊池美也議員）は、条例4件、予算7件、その他1件について付託を受け、審議を行いました。今委員会では、今後の施策全般にわたり活発な質疑が交わされました。その結果、全12議案が原案のとおり可決・承認されました。

## 公共住宅整備事業費について

**問** 耐用年数が経過した八幡住宅を全面改修し、高齢者等生活弱者が安全安心して生活できる公的住宅を2棟10戸整備したが、転入居の進捗具合は。何戸かは入居が済んでいる。残りは『政策的空き家』として位置づけ、古い住宅で生活している高齢者等生活弱者の入居を勧めている。昭和30〜40年代に建築された古い八幡住宅は老朽化が激しく非常に危険。水洗



市営八幡住宅

化もなされていない。しかし、転居後の家賃増の問題や慣れ親しんだ場所から移りたくないという居住者の思いなどもあり、転居が進んでいないのが現状である。

**問** 今後の進め方は。

**答** 顧問弁護士と相談したうえで早急に向向性を見出し、再度、対象者に丁寧な説明をしていく。居住者の安心安全のためにも、危険な古い住宅から新しい住宅への転居を促していきたい。

## 防災無線について

**問** 防災行政無線の不具合や無線機器の寿命が来ていると聞くがどのような対応を取ったのか。

**答** 防災センターの建設時点の計画どおり、設備更新を考えていた平成26年度で整備し現在運用中である。行政、防災、情報の3部門を一回に整備す



防災無線放送設備

るには予算の関係上たいへんであるが、今回行政と防災の部門を整備した。

**問** イベント等の広報的な放送が多い気がするが。

**答** 防災に関することが最優先と考える取り組む。  
**問** 放送するときのマニュアルはあるか。  
**答** 継続的なマニュアルがあり、それにより運用している。

## 清養園クリーンセンターの今後は

**問** 既存建物はどうなるのか。

**答** 10月以降、清養園でのゴミ焼却は終了。焼却施設は平成28年度末まで休止扱い。その後廃止に向けた手続きを踏む。建物解体には多額の費用を要するので、財政状況等を踏まえ、解体時期を検討していく。

**問** 現在焼却施設で勤務している市職員3名と民間職員4名の処遇は。

**答** 市職員は、岩手中部広域行政組合が運営する遠野中継センターへ1名を派遣。残り2名は市最終処分場で従事する。民間の職員については、中継センターで引き続き業務が委託されるものと考えられる。

**問** ごみ処理施設運営費の増の要因は。

**答** 中継センター工事の遅れに伴い、9月末で停止予定だった清養園焼却施設を10月



清養園クリーンセンターごみ焼却施設

16日まで稼働延長する必要が生じたため、岩手中部広域行政組合から負担金398万5千円を受け、同額で増額補正するものである。

## 学校林の活用は

**問** 市有林造成基金条例の中に、遠野市学校林条例に示されている山林が含まれているが、どのような位置づけなのか。

**答** 今回改正する市有林造成基金条例の中に学校林に係る山林も含まれているが、学校林については、遠野

## 市民の声

このコーナーでは、市民のみなさまから議会に寄せられたご意見等について一部ご紹介いたします。（なお、文章は原文のまま掲載しています。）

議員さんいつもご苦労様です。私たちの市民の生活のためにいろいろ計画して下さいありがとうございます。議会だよりはいつも目を通して読んでいます。これからもよろしくをお願いします。（宮守町 女性）

私も大槌から遠野に来て4年4ヶ月になり42号議会報を見て感じた事ですけど市民と議会との懇談での市民の参加が少なすぎる事。政策、要望、色々な課題があるならば市民の皆様もお互いに声をかけて議会に協力していかなければと思います。これからの遠野議会を期待しています。がんばってください。（上組町 男性）

古い建物、空家がふえていくばかりですけど今後どの様に変化していくのでしょうか……何の力もない私達は不安ばかりです。（宮守町 女性）

**問** 市の保育士等職員の処遇については、保育協会職員として採用する。臨時職員については採用試験の受験や臨時職員としての雇用を円滑にすることで合意された。

**答** 市の保育士等職員の処遇については、保育協会職員として採用する。臨時職員については採用試験の受験や臨時職員としての雇用を円滑にすることで合意された。

**問** 保育方針に対する合意形成は図られたか。

**答** 市立幼稚園・保育所と保育協会の保育園とでは、子ども個々の自由な保育や集団的な活動保育などそれぞれ特色があるが、職員研修や交流会の中でお互いの長所を生かして、より良い保育環境づくりに向けて合意が図られた。

## 血液透析療法患者輸送対策について

**問** 患者個々人の状況の把握、要望の確認をする必要があるのではないかと。

**答** 患者の会を通じて、意思確認をしてきたが、今後も連絡を取りながら進めていきたい。

**問** 輸送対策事業の対象外の個人々人に対しても、通院の助成が必要ではないかと。

**答** 個別的な助成も考えてみたが、結論には至っていない。市内で通院できる環境作りとして市内で血液透析療法のできる病院に増床の要望をしていきたい。



保育協会へ移管